第十七野戦自動車廠第二移動修理班略歴

陸軍大尉　鵜飼　清

年月日	概要
昭一九、三、一五	部隊行動の概要 中国派遣軍の戦斗序列に入らしめらる。
三、二二	満州国東安省西東安に於て編成完結爾後の行動を準備す
三、二八	満州国東安省西東安出発列車にて華中に向ふ
三、三一	山海関通過、同日中国派遣軍総司令官の隷下に入る
四、三	浦口到着宿営爾後の行動を準備す
四、九	揚子江を渡河し南京到着爾後の行動に関して連絡す
四、一一	南京発列車にて蕪湖に前進
四、一二	蕪湖到着
四、一七	蕪湖出帆、
四、二九	石灰窟上陸宿営
五、一	石灰窟発自動車行軍に依り第十一軍自動車廠武昌支廠に到着宿営
自五、二二 至七、二一	武昌支廠に在りて作戦参加車輌の修理作戦用部品燃料の作業援助自隊兵器の整備自衛戦斗の教育並車輌輸送に従事
七、二二	第三梯団として自動車行軍に依り武昌出発

0797

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、八、七	岳州（五里牌）に到着露営す
八、三〇	岳州（五里牌）発衡陽に向ひ前進
九、二〇	第三梯団の編成を解かれ同日易俗河附近に修理所開設の命を受く
九、二四	易俗河着該地に於て修理業務並軍需品の前送集積に任す
一〇、二五	易俗河発
一〇、三〇	松木塘並衡山着該地附近にて修理業務に任す
一一、三〇	隊は衡陽附近に前進し車輌の修理業務班部品燃料の前進集積に従事す
二〇、三、一八	隊は一小隊を桂林に前進せしめ修理業務並工場建設に任ぜしむ
八、五	反転作戦に伴ひ桂林一小隊を掌握引続き中衡陽附近の軍需品の処理に任す
八、一四	停戦詔書発布さる
九、四	反転の命を受け衡陽発
九、二五	青山鎮に到着留用燃料の採掘並接収車輌の修理に任す
一一、二五	華容鎮地区集結のため青山発
二一、二九	目的地三江口に到着道路補修に任す
二一、四、一〇	泥濘にて乗船
四、一六	上海に到着す　海第百六号
四、二二	輸送指揮官香取大尉の指揮を受け上海出発
四、二九	佐世保港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍野戦兵器廠略歴

陸軍大佐　大越幸一

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一四、二、七	軍令陸甲第三十一号に依り野戦砲兵廠に野戦工兵廠にを統合、第十一軍野戦兵器廠を編成
	編成地は漢口にして漢口に本部並倉庫　工場各一を武昌地区に倉庫五　工場一
	又九江に支廠、揚子江廣水長江埠　花園に出張所を設置
	行動の概要及日時
自一四、二、七　至五、三、九	武漢周辺地区冬期作戦参加
自一五、四、一九　至一五、七、三一	宜昌作戦参加、沙洋鎮支廠設置
自一五、一一、一　至一五、一二、一〇	漢水作戦参加
自一六、二、二一　至一六、一〇、三一	第一次長沙作戦参加
自一六、一一、三一　至一七、二、一一	第二次長沙作戦参加
自一七、九、一　至十八、三、三一	大別山作戦及江北殲滅作戦参加、郭州出張所設置
一八、八、二	陸軍大佐　大越幸一　廠長として着任
自一八、一〇、一八　至一九、一、一〇	常德殲滅作戦参加
自一九、五、一〇　至二〇、二、二六	湘桂作戦参加

0799

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、三、三一	軍令陸甲第十八号に依り編制改正
七、一四	武漢転進作戦参加
九、二五	武昌に於て武装解除湖北省黄坡県揚子江集中、中国側の管理を受く
二一、五、一五	解除、内地帰還のため漢口出発
五、二六	内地帰還のための揚子出発
四、二九	先発隊内地上陸（舞鶴）
六、二	先発隊内地上陸（仙崎）
六、一〇	本隊内地上陸（佐世保）

内七

0800

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍野戦自動車廠略歴

年月日	概要
昭一四、一、一	軍令陸甲第三十一号第十一野戦自動車廠編成下令
一〇、一	編成業務着手
二、七	中華民国湖北省武昌県武昌編成完結
一六、一、一	本廠を湖北省、夏口県漢口に移駐
一九、五、一	湘桂作戦に参加
	中華民国湖南省岳陽県岳州に移駐
一九、六、一	湖南省長沙県長沙移駐
一九、八、一	湖南省衡陽県衡陽移駐
一九、一〇、一	廣西省全県全移駐
一九、一二、一	廣西省柳江県柳州移駐
二〇、三、二九	廠長陸軍大佐神山悦雄
二〇、三、三一	軍令陸甲第十八号に依り編制改正完結
二〇、六、一	廣西省臨桂県桂林移駐
二〇、七、一	廣西省全県全移駐
二〇、八、一	廣西省零陵県零陵移駐
二〇、八、一	湖北省武昌県武昌移駐

0801

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外七

年月日	概要
昭二〇、八、三五	復員下令
二一、七、二六	復員完結
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍　第十一軍野戦貨物廠略歴

年月日	概要
昭一四、一〇、三一	軍令陸第　号に依り第一野戦衣糧廠第五野戦衣糧廠第三野戦衛生材料廠第八野戦衛生材料廠を併合し第十一軍野戦貨物廠編成下令
一一、一	編成業務着手
一一、七	中華民国湖北省武昌に於て編成完結
一五、四、二九	自昭十五年四月二十九日至昭十五年七月三日宜昌作戦参加
三、一二	自昭十五年十二月十一日至昭十六年二月二十八日豫南作戦参加
一六、三、一	自昭十六年三月一日至十六年五月二十四日江北作戦参加
五、五、	本廠を中華民国湖北省漢口に移転す
五、二五	自昭十六年五月二十五日至昭十六年十月三十一日第一次長沙作戦参加
一一、一	自昭十六年十一月一日至昭十七年一月三十一日第二次長沙作戦参加
一七、五、一	自昭十七年五月一日至昭十七年七月三十一日浙赣作戦参加
八、一	自昭十七年八月一日至昭十八年三月三十一日大別山作戦並江北殲滅作戦参加
一八、四、一	自昭十八年四月一日至昭十八年六月三十日江南殲滅作戦参加
七、一	自昭十八年七月一日至昭十八年十二月三十一日常徳殲滅作戦に参加
二〇、三、二〇	軍令陸甲第十八号に依り編正改正
三、二一	編成業務着手

0803

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇・三・三一	編成完結
四・二九	湘桂作戦向柳州に於ける獣医資材現地自活成績優秀の廉に依り軍司令官より賞詞を受く
五・四	湘桂反転作戦開始に伴ひ軍令に依り廠を二分し廠長以下約半分は在湖南省長沙第二十軍野戦貨物廠長の指揮下に入り本廠を長沙に支廠を岳州に設置す、殘半分は在武漢第十一軍司令官の指揮下に入り其の一部を九江に配置す
七・一五	第二十軍野戦貨物廠の武漢地区反転に伴ひ同廠の配属を解カし第二十軍司令官の指揮下に入る
八・一四	停戦詔書発布せらる
八・二五	復員下令
九・二	停戦協定締結
二・五・三	内地帰還のため湖南省長沙県殿凝出発
六・一四	上海集結
七・一	上海出帆
八・一	浦賀上陸
八・三	復員式挙行
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略厂を省略す

0804

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍病馬廠略歴

年月日	概要
昭一四、一〇、二九	軍令陸甲第三十号に依り第十一軍病馬廠編制下令
一一、七	編成完結
自一四、一二、七 至一五、三、一九	十四年冬季作戦に一支廠を参加開設せしめ傷病馬の收療に任す
自一五、三、一〇 至一五、四、二八	本廠支廠共に傷病馬の收療に任す
自一五、四、二九 至一五、七、三一	宜昌作戦三箇支廠を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一五、八、一 至一五、一〇、三〇	漢水作戦に二枚護所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一五、一一、一 至一五、一二、三一	前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一六、一、一 至一六、二、八	豫南作戦に一箇出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一六、二、九 至一六、五、二五	以前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一六、八、一 至一六、一〇、三〇	長沙作戦に二ヶ枚護所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一六、一〇、三一 至一六、一二、三〇	前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一七、二、一 至一七、三、二六	第二次長沙作戦に一箇出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一七、三、二七 至一七、四、二九	前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一七、四、三〇 至一七、八、三一	浙贛作戦に三ヶ支廠を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一七、九、一 至一七、一二、三一	大別山作戦に一箇出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一八、一、一 至一八、三、三一	江北作戦に三箇出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自一八、四、一 至六、三〇	江南作戦に一支廠三出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自七、一 至一〇、九	前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一〇、一〇 至一九、一二〇	常德殲滅作戦に三ヶ出張所を参加せしめ傷病馬の收療に任す
自一一、二一 至一四、二八	前任務を続行すると共に傷病馬の收療に任す
自一四、二九 至二〇、四、二八	湘桂作戦に参加し傷病馬の收療に任す
自二〇、四、二九 至五、三一	前任務を続行すると共に本廠は柳州に位置し桂林全県南寧に各支廠を開設、傷病馬の收療に任す
自六、一 至八、一四	湘桂反転作戦に参加せしめ傷病馬の收療に任す
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
九、一五	武昌集結
自二〇、一二、二五 至二一、四、一五	於漢口中国部隊に留用傷病馬の收療管理
五、二	内地帰還のため漢口出帆
五、一三	上海到着
五、二五	上海港出帆
五、二九	博多港上陸
六、一一	復員式挙行

0806

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八七兵站病院略歴

一 部隊名

固有部隊名　第八七兵站病院

通称部隊名　呂第六〇〇二部隊

二 部隊長官氏名

陸軍軍医中佐　鈴木敏夫

三 部隊編成完結及行動の概要

昭和十九年四月十二日満州国興安北省海拉爾に於て編成完結支那派遣の為昭和十九年四月二十四日満支国境（山海関）通過同年五月七日中華民国湖北省武昌県武昌着以来大東亜戦役支那方面患者収療業務に従事す

四 復員帰還の状況

昭二十一年一月十六日上海港出帆同月十九日鹿児島港着同月二〇日上陸除隊呂第解除となり残務整理者二名を残し即日帰郷す

0807

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六方面軍第百四十兵站病院略歷

年月日	概要
昭一九、二、七	臨時動員才六号才百四十兵站病院編成下令
二、七	編成業務着手
二、一六	久留米編成完結
三、一〇	中華民国山東省済南市に於て京漢作戦参加準備
四、一三	京漢作戦参加
四、二四	河南省新鄭
五、二四	河南省洛陽
六、一三	新鄭出発
七、八	中華民国湖北省漢口市
七、一三	中華民国湖北省武昌市に於て湘桂作戦参加準備
九、九	武昌市出発
九、二七	湖南省湘陰県新市到着
一一、二三	新市出発
一二、一六	中華民国廣西省桂林市着
二〇、七、二二	桂林市出発反転作戦参加
九、七	中華民国湖北省夏口県漢口着

0808

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、六、九	内地帰還の為漢口出発
六、一六	上海着
七、五	上海出帆
七、一三	浦賀港上陸
	内時帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六方面軍第百八十一兵站病院略歴

軍医中佐　荒木辰市

年月日	概要
昭一二、九、一	熊本陸軍病院に於て野戦予備病院第一五班の編成を完結す
一六、一二、一	大東亜戦争勃発と共に南方に転用せられ香港に病院を開設以後南方方面の患者を収療す
一八、二、一	第十一軍に復帰す漢口に於て元英国系病院を接収し伝染病院を開設す同時に二半部を咸寧に又患者療養所を長安並馬橋に開設す
一九、四、一	湘桂作戦開始せらるや咸寧の二半部は岳州に前進開設し漢口に於ける主力の前進と共に之に復帰し而て各療養所も又主力に復帰す而て六月には新市に前進開設し以後漢口又は株州に或は衡陽、邪陽に患者療養所を開設するの他主力は廣西省全県に進出し病院を建設す
二〇、三、一	野戦予備病院第一五班を其のまゝ第百八十一兵站病院に改編同月十日編成を完結す
二〇、一〇、一	武昌に集結後一時第百五十九兵站病院の兼務を援助せしが後同病院を継承す
二〇、一一、一	各部隊の移動集結に伴ひ十二月主力は華容鎮に開設し鄂城、黄岡団風に各々患者療養所を開設す
二一、四、一	復員の為主力一〇五名先づ華容鎮に於ける患者を護送しつ同月二十五日上海に

0810

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七　二

到着し数島官舎に入り第一五九兵站病院の業務を援助す。
来船上海出発、同月十二日浦賀に上陸残務整理者以外の除隊名簿を解除す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六方面軍第百八十二兵站病院略歴

年月日	概要
昭二〇、三、一〇	軍令陸甲第十八号在華部隊臨時編成（編成改正）第三百二十二次復帰（復員）に処り第百八十二兵站病院編成下令
三、一〇	元野戦豫備病院第三班入員材料を以て編成業務に着手
三、一〇	編成完結（於柳州）
自三、一〇 至八、一四	湘桂作戦後の警備並に病院開設業務
八、一〇	中華民国湖北省漢口県漢口移駐
二、五、七	内地帰還のため傷病患者を護送し一部漢口出発上海に下航す
五、二四	内地帰還のため還送患者を護送し部隊主力漢口出発上海に下航す
七、二	上海に集結せる部隊は逐次患者を護送し内地に上陸し主力は七月二日一〇二名を最後とし七月十二日浦賀に上陸せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十三兵站病院略歴

陸軍軍医中佐　八幡幹利

部隊編成完結の状況

昭和二十年軍令陸甲第十八号に拠り野戦予備病院第十四班は復帰し其の人員資材を以て第百八十三兵站病院の臨時編成を命せられ同年三月十日中華民国廣西省柳州に於て編成を完結す

部隊行動の概要

部隊行動の概要

1. 臨時編成完結と共に廣西省柳州に於て野戦予備病院第十四班の業務を其のまま継承し病院業務を続行す

2. 第十一軍命令に依り武漢地区に転進のため昭和二十年六月十四日より二十日に至る間数梯団に分れ収容患者約一千名を護送しつつ自動車に依り先づ桂林に前進爾後徒歩自動車鉄道水路等に依り全隊衡陽、長沙、岳州等を経て数梯団に分れ各地に在る兵站病院よりの後送患を護送しつつ前進し八月二十二日より二十三日に至る間武昌に集結完了す

3. 昭和二十年九月三日第百五十九兵站病院長の指揮下に入らしめられ同病院博文書院分病棟

0813

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の業務を継承す、

4 昭和二十年九月二十七日武昌市に於て病院を開設し、昭和二十一年五月十三日病院を閉鎖す、

5 昭和二十一年六月九日復員のため漢口出発船舶（漢口―南京）及鉄道（南京―上海）に依り同月十六日上海に到着第百五十八兵站病院の業務を援助す、

6 復員のため主力は昭和二十一年七月六日上海出発同月二十五日浦賀に上陸同月二十七日除隊召集解除し部隊を解散す、

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す、

0814

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍独立有線第百二中隊略歴

年月日	概要
昭一九、三、五	軍令陸甲第十二号に拠り独立有線第百二中隊編成下令
三、五	編成業務着手
三、一〇	東安省密山県東安に於て編成完結
四、二六	廣東省廣東に移駐
自一九、六、二四 至一九、八、二八	湘桂第一期作戦参加
自一九、八、二九 至一九、三、一五	湘桂第二期作戦参加
自一九、一二、一六 至一九、三、三一	湘桂第三期作戦参加
自二〇、一、一 至二〇、五、三	湘桂作戦後の警備並に都安作戦に参加
二〇、八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、五、一七	内地帰還のため江西省九江出発
六、二	上海出発
六、二	佐世保港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍独立無線第九十七小隊略歴

陸軍中尉　吉川半八郎

年月日	概要
	編成完結の状況
	軍令陸甲第十二号に依り独立無線第九十七小隊編成下令
	編成担任官　電信第八連隊長
昭一九、三、五	編成業務着手
三、一〇	黒河省孫吳県孫吳に於て編成完結
	行動の概要及其の日時
一九、三、一六	山海関通過
四、二三	中華民国広東省広東移駐
六、二四	湘桂第一期、第二期、第三期作戦に参加
二〇、一、一	湘桂作戦後警備並に都安作戦に参加
五、四	湘桂反転作戦に参加
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、一五	復員業務着手

0816

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、五、一七	内地帰還のため江西省九江出発
五、二九	上海港出帆
六、四	鹿児島港上陸
六、八	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍独立輜重兵第五十五大隊第五中隊

年月日	概要
昭一六、七、二三	特歩編第三号独立輜重兵第五十五大隊編成下令
七、二三	編成業務着手
七、二七	大阪編成完結
八、三一	満州国牡丹江省寧安県牡丹江移駐
	同地附近警備並輸送業務従事
一九、三、一五	中華民国安徽省蕪湖県蕪湖移駐
四、二二	中華民国湖北省武昌県武昌移駐
	第十一軍司令官の指揮下に入る
自四、二九 至一二、九	湘桂作戦参加
自二〇、三、二五 至五、三、三	都安作戦に参加
六、一八	第十一軍司令官の指揮下に入る
六、一八	停戦協定締結に伴ひ中華民国湖南省長沙県長沙に移駐集結、復員業務着手
二一、六、一四	中華民国江蘇省上海に移駐集結
七、一五	内地帰還

0818

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八十四矢站警備隊第三中隊略歴

年月日	概要
昭二〇、一一九	動第五十六号に依り第八十四矢站地区隊動員下令
一、二六	動員第一日
一、三〇	於大阪編成完結
	行動の概要及其日時
二、六	支那派遣の為大阪出発
二、八	博多港出帆、釜山上陸
二、一〇	鮮満国境通過
二、一二	山海関通過
三、三	中華民国湖北省漢口着
三、四	武漢地区にて待機
五、一二	武漢矢站警備勤務に従事
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、四、二二	上海出帆
四、二九	佐世保上陸、復員式終了
五、六	復員完結

0819

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二〇軍兵站勤第八十二中隊

年月日	概要
昭一九、二、六	軍令陸甲第　号兵站勤務第八十二中隊編成下令
二、六	編成業務着手
二、五	於大阪編成完結
三、三	門司港乗船
三、四	釜山上陸
三、九	山海関通過
四、二八	中華民国湖北省鄂城県葛店に移駐
自五、一〇 至八、八	湘桂作戦第一期参加湖南省に於て兵站勤務に従事
自八、九 至一二、九	湘桂作戦第二期に参加湖南省に於て兵站業務に従事
自九、一〇 至一二、二八	湘桂作戦第三期に参加湖南省に於て兵站業務に従事
自一二、一 至一六、一〇	湘西作戦に参加湖南省に於て兵站業務に従事
自一六、一二 至一八、一四	中華民国湖南省に於て兵站業務に従事
一八、二五	中華民国湖南省衡陽県衡陽に於て復員下令
一九、九	停戦協定締結
二〇、五、二三	内地帰還の為長沙出発
六、二六	上海港上船　同七月三日佐世保上陸
七、三	復員完結

0820

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍司令部

陸軍中将　坂西一良

年月日	概要
昭一六、九、一	軍令陸甲第　号第二十軍編成下令
九、一	第二十軍司令部編成着手
一〇、二	満州国東安省雞寧に於て編成完結
	軍司令官　陸軍中将　関　亀治
一八、三、一〇	軍司令官　同　本多政材
一九、九、二八	大陸命第一一四三号に依り中国派遣軍総司令官の隷下に入る
一〇、二八	中華民国湖南省衡陽に移駐
一〇、三一	第二十軍編成完結
自一九、二、一八 至一九、三、七	新軍隊区分に基く総帥発動 湘桂作戦に参加（湖南省警備）
自一九、三、一八 至二〇、二、二八	死没人員　将校二名、下士官（判任文官）一名、兵（雇傭人）三名 南部奥漢打通作戦に参加
自二〇、三、一 至二〇、六、一〇	死没人員、下士官（判任文官）三名　兵（雇傭人）四名 湘西作戦に参加
	死没人員　兵（雇傭人）一名

0821

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一四	停戦に関する詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、七、三	内地帰還の為上海港出帆
七、一二	浦賀上陸
七、一四	部隊主力（五七一）除隊召集解除
	兵力
	入院患者　二四名
	生死不明者　一一名
	所在不明者　五名
	死亡者　四一名
	現地残留者　七七名
	内地帰還者　七三七名（二一、七、一四以前帰還せるも一六六を含む）
	現地除隊者　四名
	総員　八九九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍司令部の一部略歴

第二十軍司令部附
田中丸善吾

輸送指揮官　陸軍大尉　花輪　実

陸軍大尉花輪　実以下七名転業指導の為内地先遣を命ぜられ三月十五日司令部と分離す

三月十五日　湖南省長沙県橋頭出発

三月二十日　漢口総司令部に到着

四月十八日　漢口より江建丸に乗船南京に向ふ

四月二十日　南京到着、南京より鉄路上海に向ふ

四月二十二日　上海到着、南呉淞站宿舎にて待機

五月十五日　LS下に乗船内地に向ふ（納　中佐と同行）

五月二十二日　仙崎上陸

乗船の都合上上海に於て左記の者司令部に転属す（五月十三日附）

（別紙転属者運名簿添附す）

左　記

第十一軍野戦自動車廠　陸軍大尉　田中丸善吾

自動車第三十四聯隊　陸軍上等兵　徳坂俊男

矢站勤務第八十二中隊　陸軍兵長　奥井秀雄

0823

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立自動車第八十三大隊　陸軍上等兵　水野繁雄

内地帰還人員　七名

0824

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍司令部の一部略歴

第二十軍経理部附
鈴木一誠

部隊長　陸軍中尉　坂西一良

昭和二十一年二月十九日復員本部に於ける国有財産整理委員として派遣目的を以て建技准尉中村定夫、建技准尉増田英樹と共に橋頭（湖南省長沙北方）を出発し部隊主力と分離す。

二月二十二日漢口到着　四月十二日漢口上船　四月十八日上海到着、五月十五日上海を出航す

五月二十二日仙崎上陸　二日市町に至り五月二十三日復員本部勤務を命ぜられ国有財産整理業務に任す。

五月二十八日業務を完了し鈴木建技大尉以下三名命に依り予備役に編入の上帰郷す。

0825

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍司令部の一部略歴

一、部隊の編成及前集中地

陸軍大尉鈴木仙三以下九拾名（弱兵）中支湖南省長沙県橋頭

二、行動概要

四月　九日　長沙県橋頭より行軍出発し嘉灘港より乗船

四月二十日　漢口楊子矢站に集結

五月十四日　漢口にて乗船、南京に到着

五月二十二日　南京より鉄道輸送にて上海へ

五月二十三日　上海着

六月　八日　上海港出帆（乗船々名　リバテイ49）

六月十五日　博多港上陸

三、博多上陸迄人員に移動す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍司令部の一部略歴

第二十軍司令部附
陸軍法務少佐　中　藤　幸　太　郎

一　部隊長　陸軍中將　坂　西　一　良

二　復員本部に於て第二十軍臨時軍法会議思叔業務を処理する目的を以て昭和二十年十二月十一日准士官一、下士官一と共に長沙県橋頭を出発部隊主力と分離す

三　同年十二月十四日漢口到着船便を待つ間第六方面軍法務部に於て勤務の後同二十一年三月二十四日漢口出発

四　四月二日上海到着同月十五日定呉沈矢舎に隔離せられ同月二十日上海出航

五　同月二十四日博多上陸翌二十五日二日市町に到着復員本部勤務を命ぜられ前記業務の処理に任じ五月十四日任務終了帰郷す

0827

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

旧第二十軍司令部の一部略歴

旧第二十軍司令部附
島岡栄蔵

一 編成

1 年月日 昭和二十一年五月十六日

2 人員

陸軍中尉	島岡栄蔵	(9/1D)
陸軍准尉	森内美秋	(64D)
同	大橋熊太郎	(68D)
同	向井重美	(2CS)
陸軍曹長	伊藤幸之助	(116D)
同	中島正孝	(9/1D)
同	河合忠一	(9/1D)
陸軍軍曹	松井栄一	(8/BS)
陸軍伍長	園部完	(82BS)

備考 括弧内は旧所属部隊名とす

二 部隊概要

部隊人員は夫々第二十軍遺骨護送部隊(編成9/1D 8/11D、116D、68D、64D、81BS、82BS、2CS)(各護送隊64D 2CS は

外 十五

0828

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

上海に於て配属を解かる）の所属人員として漢口来船帰還途中上海に於て第六方面軍上海派遣隊命令により各隊未整理遺骨の残務整理要員として第二十軍司令部に転属（昭和二十一年五月十六日附）を命ぜられ爾後第二十軍遺骨護送隊長（第一師団第一兵站司令官）の指揮下に在りて行動中六月五日上海来船に当り護送隊は二分せられ（4/D 116D 68D）（　は 8/D 81BS 82BS）当隊人員は各々各隊捧持遺骨係なるを以て一部（准尉一　軍曹一　伍長一）は佐世保に二十一日上陸し同地に於て関係の業務終了せるを以て復員支局の指示により別に第二十軍司令部の一部として復員帰郷せり、主力は六月十一日鹿児島上陸同地に於て整理遺骨引継き六月十四日二日市到着す

捧持未整理遺骨数　一七九柱
〃　遺留品　一個

三　事故者

陸軍准尉　大橋熊太郎（然性病の為十二日鹿児島に於て入院）

四　帰郷者

陸軍曹長　伊藤幸之助
関係未整理遺骨なき為鹿児島支局の指示により六月十一日召集解除帰郷せり
陸軍准尉　向井重美
陸軍軍曹　松井栄一
陸軍伍長　園部完
佐世保に於て別に第二十軍司令部の一部として復員す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍野戦郵便隊略歴

通信事務官　白田森之助

年月日	概要
昭一九、二、一〇	昭一九年湘桂作戦に伴ひ武漢地区より前進せる第六方面軍直轄野戦郵便要員を以て第二十軍野戦郵便隊を編成
	本部駐地　湖南省衡陽
	隊長以下高等官六名、判任官四〇名、雇員三五名計八一名
二、一、二七	第一五三局（南岳市）を末陽へ移転
二、三	隊長　通信事務官兼逓信事務官　小林政治
二、一二	第一八二局（宝慶）を開設
二、二〇	第一五一局（醴陵）を株州へ移転
二、二二	第六八局（劉陽）を零陵へ移転
三、三一	第一八六局（柳県）を開設
六、六	第一八七局（深湾市）を開設
七、二〇	第一八九局（祁陽）を開設
七、二一	第一八八局（衡陽市内）を開設
	第一八六局（柳県）を閉鎖
七、二三	第六八局（零陵）を閉鎖

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、八	本部湖南省長沙へ移転
八、二〇	第一五三局（来陽）　第一八二局（宝慶）
	第一八九局（祁陽）を閉鎖
八、二五	第六一局（衡陽市内）第一八八局（衡陽市内）を閉鎖
九、三	第一四三局（岳州）第一五二局（石首）
	第十一軍より編入
九、五	第一八七局（洛湾市）を閉鎖
九、八	第一五二局（石首）を閉鎖
九、九	第一五一局（株州）第一五六局（湘潭）を閉鎖
一〇、一	第一四三局（岳州）雲溪へ移転
一〇、五	本部第一五五局（長沙）湖南省長沙県橋頭へ移転
二、四、九	本部第地事務官以下二十名内地帰還の為橋頭出発（第二十軍直轄部隊第一次慰者弱矢輸送隊に編入せらる）
四、二三	隊長以下二十五名内地帰還の為橋頭出発
四、二四	第一四三局長以下三十一名（内二名岳州に於て入院）内地帰還の為雲溪出発
五、一八	第一四三局長以下
五、一九	隊長以下上海到着
五、二三	第地事務官以下上海到着

0831

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

備考	第一四三局長以下二十九名は本隊（隊長以下四五名）と分離して上海出発の予定なり
昭二一、六、一〇	鹿児島上陸
六、一〇	残務整理者以外の者の従軍解除
六、二〇	復員完結

0832

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十六師団司令部略歴

陸軍中将　茨田元四郎

年月日	概要
昭一三、五、一五	動員下令
五、二七	京都に於て動員完結
	師団長　陸軍中将　清水喜重
六、一九	華中派遣軍の隷下に入る
六、一九	大阪出発
六、二二	中華民国江蘇省上海上陸
六、二五	浙江省杭州移駐
	師団司令部は杭州に位置し師団は昭一三、八、二九迄杭州附近警備に任す
八、三〇	江蘇省南京移駐
	師団司令部は南京に位置し師団は南京及鎮江附近に集結し前進を準備す
九、一三	安徽省安慶移動
	師団司令部は安慶に位置し師団は昭一三、一〇、五迄揚子江岸の警備に任す
一〇、一六	漢口攻略戦
	歩兵第百十九旅団（歩一二〇、歩一三三）主力及師団直轄部隊は第十一軍及第二軍の指揮下に入り新春附近に上陸黄白城付近に戦闘を経て漢口の攻撃に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	す・昭一三、一一、五原所属に復帰す
昭一三、一二、八	大通南方地区作戦
	歩兵第百三十旅団を基幹とする部隊を以て大通南方地区より青陽方面に進撃す
	師団戦闘司令部は大通より青陽方面に前進と作戦指導に任す昭一三、一二、二六終了す
一四、五、一	師団長　陸軍中将　篠原　誠一郎着任す
一〇、一	戦闘序列を第十三軍の隷下に入らしめらる・
一二、二六	揚子江岸冬期作戦
	中国軍は所謂冬季攻勢を採り昭一四、一二、二六約十個師を以て重点を大通方向に指向し師団の第一線に全面的に来攻し揚子江の遮断を企画せり
	師団は全力を以て直ちに之を邀撃大通方面に於ては一時粉戦を惹起せるも第百一師団及第百六師団の一部を配属せられ同月下旬概ね之を撃退引続き果敢なる反撃作戦を開始し青陽及池州南方に蟠踞せる敵を撃滅し敵の企画を完封多大の戦果を収め昭一五、一、四本作戦を終了せり
	此の間戦闘司令所は大通青陽及池州附近に前進作戦指導に任せり
一五、四、四	春季皖南作戦
	歩兵第百三十旅団及師団直轄部隊を基幹とし第十五師団の南陵繁昌地区の進攻に呼応し九華山の天峡を克服し青陽方面の敵を殲滅昭一五、五、六原態勢に復帰せり
	此の間師団戦闘指令所は青陽附近に前進し指導に任す

0834

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本作戦に於て歩兵第百三十旅団に感状を授与せらる。

五、七　湖東作戦

歩兵第百十九旅団主力を以て昭一五、五、七より昭一五、六、二の間播陽湖東岸地区に作戦す、師団戦闘司令所は湖口に進出す

一〇、一五　秋季皖北作戦

歩兵第百十九旅団主力を以て昭一五、一〇、一五より昭一五、一〇、三五に亘り江北桐、城西南方地区に進撃す

一一、二五　北方潯陽作戦

歩兵第百十九旅団主力を以て東流南方地区に進撃す、師団戦闘司令所は彭澤に推進昭一五、一一、八終了す

一六、一〇、一　師団長　陸軍中将　武内俊二郎着任す

一三、二四　皖浙作戦

第十三軍の南京南方地区の作戦に策応し歩兵第百三十旅団を基幹とし池州南方に進撃昭一六、一二、二八原態勢に復帰す

此の間師団戦闘司令所は池州に推進す

一七、四、三〇　浙贛作戦

師団は歩兵第百十九旅団主力を以て揚子江岸警備を担任せしめ主力は五月初旬杭州附近に集結第十三軍の最右翼矢団として遂徳を攻略し次て衢州城の攻撃に参加し攻略後同飛行場を覆滅し昭一七、九、三〇安慶附近に復帰せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、一二、二一	大別山作戦 第十一軍の立煌方面の作戦に呼応し歩兵第百十九旅団を基幹とする部隊を以て桐城潛山の敵を撃滅し昭一八、一一八原態勢に復帰せり
一八、六、二五	軍令陸甲第三十六号に依り臨時編成下令昭一八、七、一〇編成完結
七、一	師団長　陸軍中将　岩永汪着任す
一〇、五	常徳殲滅作戦 師団は安慶附近揚子江岸警備を第百十六歩兵団長に担任せしめ主力は漢口付近に集結第十一軍の指揮下に入り沙市南方より常徳に向ひ進撃十一月下旬より常徳城を攻撃之を占領附近の敵を撃滅十二月中旬初反転し昭一九、一、一〇　武昌附近に集結す
一九、一、一〇	本作戦に於て歩兵第百三十三聯隊に感状を授与せらる
	湖北少武昌駐留 師団司令部は武昌に位置し昭一九、四、一九迄其の附近に駐留警備に任す
二、一〇	戦闘序列を以て第十一軍の隷下に入らしめらる
四、二〇	相挂作戦 師団は五月下旬岳州南方に集結の後第十一軍各兵団と共に新墻河を渡河し洞水湖畔株州附近の戦闘を経て衡陽城に肉迫月余に亘り猛攻の後之を殲滅し更に空

0836

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

慶西方に進出敵の退路を遮断し宝慶攻略を容易ならしめ昭一九、一〇、二本作戦を終了せり

一〇、三　湖南省宝慶駐留

湘桂作戦終了后師団司令部は宝慶に位置し宝慶附近を警備に任す

三、一　戦闘序列を以て第二十軍の隷下に入らしめる

二〇、三、二九　師団長　陸軍中将　菱田元四郎着任す

四、一　湘西作戦

第二十軍の実施せる本作戦の中核兵団として参加し雪峰山系を突破し沅江河畔を指呼の間に収めたるも五月上旬反転を命ぜられ追随せる十数倍の敵の重囲を克く撃破戦場を離脱し六月十日宝慶附近に到着原態勢に復帰せり

本作戦に於て歩兵第百九聯隊第一大隊は感状を授与せらる

八、一六　侍戦の大詔を拝受し同日戦闘行動を停止す

八、二五　復員下令

一〇、一　湖南省岳陽県羅武附近集結

一〇、四　武装解除

二一、四、二九　内地帰還の為羅武出発

六、六　上海到着

六、二八　上海出港（一部二一、六、二〇　上海出港）

204

(327)

0837

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内 十八

年月日	概要
昭二、七、六	浦賀上陸（一部二、七、五佐世保上陸）
七、二五	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十六師団歩兵第百九聯隊略歴

年月日	概要
昭一三、五、五	第十六師団第動員一号下令
五、一六	編成業務着手
五、二三	宮中に於て軍旗拝受
五、二四	京都市伏見区深草に於て編成完結（坂口詩氏 [illegible]）
五、二一	野営訓練のため青野ヶ原廠営
六、二〇	大阪港出帆
六、二四	中華民国上海に上陸
六、二六	中華民国浙江省杭州附近警備
八、二九	中華民国江蘇省鎮江移駐
九、九	中華民国安徽省呑口馬場鎮湖口附近警備
一二、二	第二次湖口東流間警備
一四、三、一五	東流老爺廟間の警備
六、一四	殷家滙彭澤間の警備　一〇・九・一二・上住良吉大佐
一五、二、一	東流彭澤間の警備
三、三〇	中華民国安徽省湖口に移駐
四、三	東流老爺廟間の警備

0839

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一五、四、二九	揚子江岸警備
一六、三、八	大東亜戦争参加
一八、一、二一	中華民国安徽省東流に移駐
七、一〇	昭和十八年陸甲第三十六号在支部隊臨時編成（編成改正）復帰（復員）要領に依り編制改正
一九、一、一二	中華民国湖北省武昌油坊嶺附近警備
一〇、三	中華民国湖南省邵陽県賓慶附近警備
二〇、六、一〇	中華民国湖南省邵陽県賓慶附近才二次警備
八、一四	停戦の詔書渙発
九、三〇	中華民国湖南省岳陽県忠信郷呉伏に集結
二一、五、二三	内地帰還の為上海に到着
六、一一	上海港出帆
六、二一	佐世保港上陸

一六、三、一 宿迫旅団編成
一七、四、一 横須賀出港
一七、二、一六 第五照一
一八、一一、三〇 瀬戸俊三郎

相模作戦参加
死亡 将校28名 下士官90名 兵519名

(330) 出人員 3265名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第百九聯隊第二大隊略歴

月日	概要
六、八	二三、〇〇上海第五兵站宿舎出発、私物検査場、上海市政府に向ひ前進す
六、九	三、三〇上海市政府に到着、私物検査準備をなす、九、〇〇私物検査開始、一〇、三〇終了す、直にDDT撒布消毒を施す
六、一〇	一四、〇〇市政府出発、一六、〇〇飯田橋に到着、第四号宿舎に入る
六、一一	乗船準備待機 八、〇〇聯隊本部のみ乗船帰還す
六、一二	一八、〇〇特別輸送船「樺」に乗船決定、一八、三〇より乗船を開始す、一九、三〇乗船完了、出航呉湘に仮泊す（歩一〇九第二大隊五九五名、独立混成第八十五旅団司令部五九名、独立混成第八十六旅団司令部二名、独立混成第五旅団工兵隊二名、復員本部第二独立警備隊三名、計六六一名、輸送指揮官上田大尉） 八、〇〇呉港沖出発鹿児島に向う、疑似腸チブス様患者発す隔離防疫を徹底すると共に鹿児島復員本部宛直に隔離準備を依頼す
六、一四	船中、一六、三〇鹿児島湾に入港
六、一五	船内待機五中隊兵長吉岡杉治、第二機関銃兵長山崎一雄恐性病の疑にて入院せしむ 検血、検便を実施、発疹チブス予防注射をなす

0841

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

月日	概要
六、一六	船内待機
六、一七	発疹チブス、コレラ、種痘、予防注射並に予防接種を為す
六、一八	上陸準備　一八、三〇接岸 船内大掃除　米軍巡視準備を為す　一三、〇〇米軍巡視　上陸を開始一三、三〇 完了す 検疫所に於てDDTの撒布消毒を行う、部隊主力は直に自動貨車に依り天保山 宿舎に向ふ、配宿 輸送指揮官並に事務処理要員は書類携行の上復員本部に出張書類検査を五コく 書類の補修修正各種証明書の記入並に受領日本円交換交付、
六、一九	被服、糧秣、乗車券等受領交付 一一、〇〇より復員式挙行せらる 一四、三〇部隊主力行軍に依り鹿児島駅に前進す 梱包並に弱矢自動貨車に依り輸送す
六、二〇	一六、三〇鹿児島駅に到着、配車す　一七、〇〇発車（第七中隊軍曹祖江宗、第二 技関銃中隊伍長水野恭雄の二名熱性病の疑にて入院せしむ 四、五〇二日市駅通過後務整理要員として陸軍大尉上田頂一　陸軍曹長大武重信 二日市復員本部に出張　後務整理に任ず

0842

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第百二十聯隊略歷

陸軍大佐　児玉忠雄

年月日	概要
昭一三、五、一八	編成完結状況 編成下令 聯隊長　陸軍中佐　志摩源吉
五、二三	軍旗拝受
五、二四	福知山に於て編成完結
	行動概要並に其時日
六、一	上海上陸
六、三〇	湖州附近警備（江蘇省湖州県）
九、三	南京集結
一〇、一	武漢攻略戦参加
一一、二六	順安攻略戦参加
一二、二九	銅陵附近警備（安徽省銅陵県）
一三、七	六通南方地区作戦参加
一四、二、一	安慶附近警備（安徽省懐寧県）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一四、三、一	湖口附近警備（江西省湖口県）
四、一六	安慶附近警備
一三、三一	貴池作戦参加
一五、四、一九	春季皖南作戦参加
五、一五	湖東作戦参加
一〇、三	秋季皖北作戦参加
一一、二一	北部潯陽作戦参加
一六、一、一五	東流附近警備（安徽省東流県）
五、一八	石門街作戦参加
一七、五、一	安慶周辺地区反撃戦闘参加
一一、九	一部は師団主力と共に浙赣作戦参加此の間末裔せる第五戦区の敵に対し反撃
一二、二一	池州附近警備（安徽省貴池県）
一八、六、二九	大別山作戦参加
七、一〇	軍令陸甲第三十六号に拠り在支部隊編成（編成改正）下令
七、一八	編成（編制改正）完結
一九、一、一一	常徳殲滅作戦参加
四、二〇	武昌周辺地区集結
	湘桂作戦参加

0844

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一〇、九　九嶺附近警備（湖南省邵陽県）

二〇、一　安仁附近警備（湖南省安仁県）

四、一　湖西作戦参加

六、一〇　賓慶附近警備

九、一　鹿角附近移駐　九月一日行動開始九月三十日湖南省岳陽県鹿角附近移駐

二、五、九　漢口移駐

六、四　上海移駐

八、二　復員完結

昭20.4.1
安仁～大湾沖付近に集結
4.15 進攻開始 一部をもって
五峯鋪付近 ―高沙市―洞口
主力
秋田―桃花坪―石下江―高沙市―洞口
所在の敵を駆逐しつつ前進.
4.29 雪峯山系の隘路口を奪取、上車坪に進出後、
洞口に反転
洞口―慶子橋に前進し109高を救援したのち
水東江―横板橋―和尚橋を前進
師団の進路啓開後、該地において D主力と収容
灘頭―右口鋪―周旺鋪に到り敵の進出
企図を破摧後 6月20、新冲付近に集結

死亡　将校 11
准士官、下士官 19
兵 117
計 147名

5559名
(うち軽傷1232名)

0845

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp